

一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の中間見直しについて

1. 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の中間見直しについて

一般廃棄物(ごみ)処理基本計画

基本理念

「次世代につなぐ環境都市『舞鶴』の創造」

市のまちづくりの方向性を示す計画には「環境都市創造への取組」が掲げられており、また、「第2期舞鶴市環境基本計画」においても、「～人も地域も地球も元気～環境にやさしい持続可能なまちづくり」を市の目指すべき環境像と位置付けていることを踏まえ、環境に配慮した廃棄物処理を市民・事業者・行政が連携・協力して取り組むこととします。

基本方針

基本方針1 「2Rを意識したごみを出さない生活スタイルの推進」

～出たごみをどうするかではなく、ごみを出さない工夫～

3R(リデュース=発生抑制、リユース=再使用、リサイクル=再生利用)のうち、環境負荷の少ない2R(リデュース、リユース)を優先して取り組む生活スタイルを、市民・事業者・市が一体となって推進します。

基本方針2 「循環型資源のさらなるリサイクル」

～混ぜればごみ、分ければ資源～

ごみの分別を徹底・細分化するとともに、資源化ルートを確保することにより、循環資源のさらなるリサイクルに努力します。

基本方針3 「廃棄物の適正処理の徹底」

～適正かつ安定的なごみ処理で安全安心を実感～

資源として利活用できないものは、ごみとして安全かつ適正に処分できるよう、安定したごみ収集の体制確保と、中間処理施設並びに最終処分施設の維持管理及び必要な施設整備を着実に推し進めます。

SDGsと近年の主な動き



国の主な動き

第四次循環型社会形成推進基本計画

食品ロス削減推進法

海洋プラスチックごみ対策アクションプラン

プラスチック資源循環戦略

「ごみ」に関連する主な目標



質の高い教育をみんなに
すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



つくる責任つかう責任
持続可能な消費と生産のパターンを確保する



海の豊かさを守ろう
持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



住み続けられるまちづくりを
包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する



気候変動に具体的な対策を
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる

基本計画とSDGsで関連する主な目標

基本方針1

「2Rを意識したごみを出さない生活スタイルの推進」
～出たごみをどうするかではなく、ごみを出さない工夫～

目標 12
つくる責任
つかう責任
持続可能な消費と生産のパターンを確保する

目標 14
海の豊かさを守ろう
持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

基本方針2

「循環型資源のさらなるリサイクル」
～混ぜればごみ、分ければ資源～

基本方針3

「廃棄物の適正処理の徹底」
～適正かつ安定的なごみ処理で安全安心を実感～

目標 11
住み続けられるまちづくりを
包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

目標 4
質の高い教育をみんなに
すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

目標 13
気候変動に具体的な対策を
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

目標 17
パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる

基本計画の見直しに向けての視点

計画見直しの視点

- ・ 廃棄物に関し、「世界で」「国内で」様々な目標設定
- ・ 国際社会の一員として生活者には大きな変革が求められている
- ・ 日々のごみに関する行動は世界的な取り組みに関連している

第四次循環型社会形成推進基本計画

食品ロス削減推進法

食品ロスへの対応

海洋プラスチックごみ対策
アクションプラン

海洋プラスチックへの対応

プラスチック資源循環戦略

プラスチックごみ減量・資源化



現在の 基本方針

- 1 「2Rを意識したごみを出さない生活スタイルの推進」
～出たごみをどうするかではなく、ごみを出さない工夫～
- 2 「循環型資源のさらなるリサイクル」
～混ぜればごみ、分ければ資源～
- 3 「廃棄物の適正処理の徹底」
～適正かつ安定的なごみ処理で安全安心を実感～

食品ロスへの対応

海洋プラスチックへの対応

プラスチックごみ減量・資源化

食品ロスへの対応

現状と削減推進の意義

「食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針」を基に作成

日本の状況

- ・食料は輸入に依存。食料自給率は37%。
- ・一般廃棄物の処理のために全国の自治体で年間2兆円の費用を支出。
- ・食費は家計に占める割合は大きく、消費支出の1/4。
- ・7人に1人の子供が貧困状態。

世界の状況

- ・生産された食料の1/3が廃棄。食料生産に伴うCO2排出量は全体の25%。廃棄食品の生産にCO2を排出している。
- ・世界の人口は2050年には98億人に増加。8億人が飢えや栄養不足に陥る。

食品ロスの要因

- ・消費者には過度な鮮度志向がある ⇒ 事業系食品ロスが増加
- ・消費者はスーパーに十分な量の多様な食品が置かれていることを望む ⇒ 事業系食品ロスが増加
- ・消費者と事業者のコミュニケーションと理解が重要

消費者か

事業者か

食品ロスへの対応

「食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針」素案より

求められる役割と行動

	製造 — 無駄なく使用、賞味期限延長、適正受注、容量適正化 流通 — 納品期限等の商慣習見直し
事業者	販売 — 売り切り、少量販売 外食 — 小盛・小分けの選択、食べ切り（3010）、残った料理の持ち帰り 農林漁業 — 規格外品の有効活用 共通 — 未利用食品の提供
消費者	買物 — 家の食材チェック、購入時「手前取り」、使い切り 保管 — 食材に応じた適切な保管方法 調理 — 使い切り、食べ切り 外食 — 食べ切り、残った料理の持ち帰り、宴席の最初と最後には食事を楽しむ（3010）

計画的な買い物

食品ロスダイアリー (環境省・神戸市)

- ・ 家庭で廃棄する手付かずの食品や食べ残しを記録。
(スマートフォンでも使用できるWEBアプリ)
- ・ 廃棄量をもとに、食品ロスを金額に換算し、どれくらいのロスが出たかを知ることができる。



新しい購買行動「てまえどり」の普及・啓発 (神戸市ほか)

- ・ 買って直ぐに食べる場合は、商品棚の手前にある商品や値引き商品などの販売期限が短い商品を積極的に選ぶ購買行動。
- ・ 売り場での啓発で消費者に「てまえどり」を広く呼びかけ。



農林水産省
啓発用POP



神戸市HPより

家庭で食品ロスが発生する原因

食品ロス日記式調査

京都府立大学・精華町
(京都府立大学地域貢献型特別研究)

- ・ 1週間、毎日の食事等で発生した食品ロスについて、食品名、量、理由と原因、人数等について回答。
- ・ 調査最終日には、冷蔵庫内の食品の期限確認や在庫確認などを行い、処分したものを記録。

【結果】

- 1) 食品ロスは野菜や調理品が大半を占めており、発生原因は「傷んでいた」「時間が経ち過ぎた」、「忘れていた」が多い。
- 2) 冷蔵庫整理より発生した食品ロスは、野菜に加えその他加工品、菓子類、調味料が多い。要因は、「忘れていた」が最も多く、「使わなかった」、「好みでないものを頂いた」など。

山川研究室弓削美伶氏報告資料より抜粋

3月6日(火)曜日		「入手方法」が「購入」の場合のみ記入				自宅で朝食を食べた人数 [4] 人		
料理名・食品名 (部分・状態の詳細等も記載)	量	入手方法	処分したのは 1商品の 半分以上?	期限の 種類	期限 (あれば)	処分 先	食べずに処分 することにした理由	食品ロスとして発生 することになった原因
記入例1 4枚切りの食パンの2枚 (がびっていた、袋のまま)	2枚	1購入 2調理 3もらった 4栽培等	1全部 2半分以上 3半分未満 4覚えてない	1賞味 2消費 3なし 4不明	180205 ※印刷済み ※記入を	1ごみ 2流し 3土 4えさ	カビていたの、食べられないから	しばらく朝食でパンを食べておらず、忘れていて、気づいたらカビていた。
記入例2 食パンの耳 (サンドイッチを作るため)	6枚切り食パンの1.5枚分	1購入 2調理 3もらった 4栽培等	1全部 2半分以上 3半分未満 4覚えてない	1賞味 2消費 3なし 4不明	201838 ※印刷済み ※記入を	1ごみ 2流し 3土 4えさ	パンの耳だけで食べることはなく、食べる見込みがないから	サンドイッチのときは、子供の頃から耳を落としていて、耳を食べようとは考えなかった。
記入例3 家で作ったレギュラーコーヒー (ポットの残り)	カップ1杯分	1購入 2調理 3もらった	1全部 2半分以上 3半分未満	1賞味 2消費 3なし		1ごみ 2流し 3土	昨日淹れたコーヒーのてますい	昨日の夕方になくなったときに、何も考えず作り過ぎた。

冷蔵庫の使い方の工夫で食品ロスを約半分に

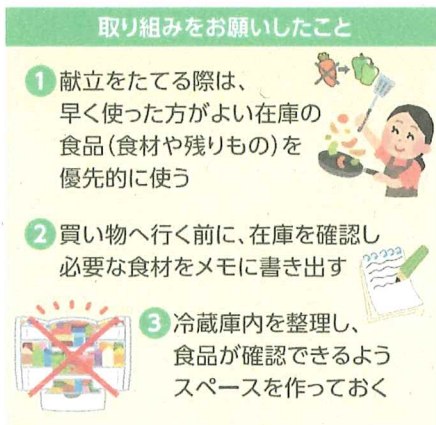
食品ロスを削減する3つの行動 (京都府立大学地域貢献型特別研究)

- ・野菜・果物類は保管が悪い等により時間が経ち傷んでしまっって廃棄されるものも多く、加工食品や菓子類などは忘れられていて捨てられるものが多い。
- ・冷蔵庫等の在庫食品の廃棄を減らす『3つの行動』の実践により、手つかず食品の約5割、食品ロス全体で4割強が削減。

食品ロス日記式調査では、忘れていたり、保管が悪くて傷んだため、手付かずで捨てられる野菜が多いこと、調理品や加工品についても、冷蔵庫や冷凍庫にあることを忘れていて、捨てられるものが多いことがわかりました。そこで、削減実験では、手つかず食品の削減を目指して、参加者の皆さんに、右の3つの取り組みを2週間、お願いしました。その結果、上のグラフのとおり、食品ロスが約半減するという、大きな成果がありました。

取り組みをお願いしたこと

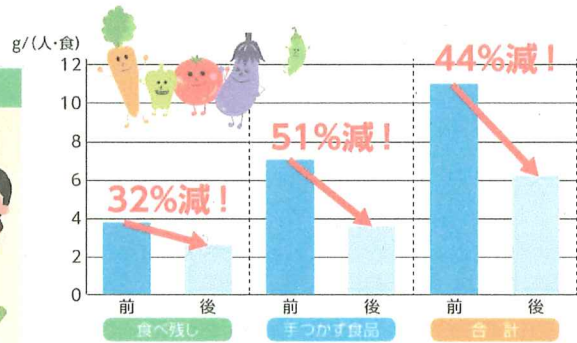
- 1 献立をたてる際は、早く使った方がよい在庫の食品(食材や残りもの)を優先的に使う
- 2 買い物へ行く前に、在庫を確認し必要な食材をメモに書き出す
- 3 冷蔵庫内を整理し、食品が確認できるようなスペースを作っておく



食品ロスの削減に取り組んでいただいた結果…

およそ半減に成功!

取り組み前後の1人1食あたりの食品ロス重量



山川研究室 弓削美怜氏報告資料より

売り切り

販売期限の近い商品の販売促進 (京都府立大学地域貢献型特別研究)

- ・調査したスーパーで廃棄量または廃棄率の多かった青果・総菜・ベーカリー部門を対象に、買い物客に対し、おつとめ品や割引商品といった廃棄期限の近い商品の販売促進。
- ・アレンジレシピの設置、店内各所に食品ロス削減を啓発するポスター設置、店内放送等で食品ロスを啓発。



【結果】

- ・総菜部門、ベーカリー部門
⇒廃棄量・廃棄率が減少。
- ・青果部門
⇒廃棄量、廃棄率が増加。
※青果部門には不向きな削減取組の可能性

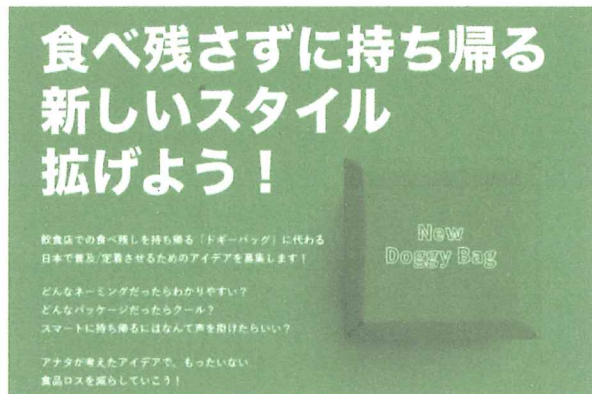
山川研究室 力武七瀬氏報告資料より抜粋

残った料理の持ち帰り

Newドギーバッグアイデアコンテスト

(環境省、消費者庁、農林水産省及びドギーバッグ普及委員会)

- ・料理の持ち帰りは、かつてはいわゆる「折り」や「折り詰め」といった文化があったが、近年は少なくなっている。
- ・自己責任で持ち帰ることを身近な習慣として広め、利用者とお店の相互理解のもとで、持ち帰りを促す。



■部門①：ネーミングの部

- ・「ドギーバッグ」の名称は、家で待つ飼い犬のため持ち帰るということに由来するといわれています。
- ・「飲食店等で食べることができなかった料理を持ち帰る行為」についての新しいネーミングを募集。

■部門②：パッケージデザインの部

- ・持ち帰り用のパッケージデザインを募集。

3月上旬から5月15日まで受け付け
6月ごろに入選者を公表

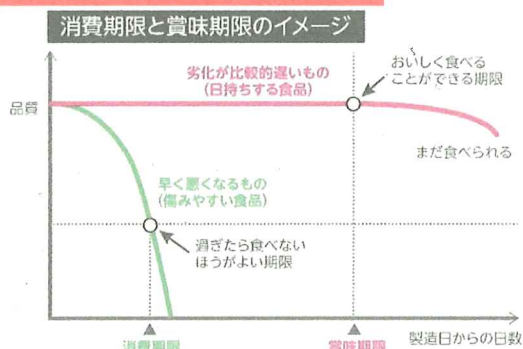
賞味期限を正しく理解 食材に応じた適切な保管

賞味期限を正しく理解する

(消費者庁啓発チラシより)

食品の期限表示は、「消費期限」と「賞味期限」の2種類があり、いずれも開封していない状態で表示されている保存方法で保存した場合の期限が表示されています。

消費期限は、「食べても安全な期限」、**賞味期限**は、「おいしく食べることができる期限」です。**賞味期限**は、過ぎてもすぐに廃棄せずに自分で食べられるかどうかを判断することも大切です。



通常、消費期限及び賞味期限は「年月日」を表示しますが、賞味期限を表示すべき食品のうち、製造日から賞味期限までの期間が3ヶ月を超えるものについては、「年月」で表示することが認められています。

野菜の保存と使いきりの情報

(神戸市HPより)

- ・手付かずで捨てられた食品のうち1/3が生鮮野菜。
- ・廃棄理由の9割が「品質の劣化」。



- ・野菜の保存の工夫をしている人のほうが食品ロスが少なかった。

肉や魚の保存方法

(消費者庁「食品お片付け・お買い物マニュアル」より)

①最適な保存場所～野菜編～		肉・魚編～
常温	常温保存といっても14℃以下が保たれる冷暗所がなければ、冷蔵庫の野菜室のほうが長持ちします。	
冷蔵	軽口を開けて乾燥防止を。ペーパータオルで包めば野菜から出る水分を吸って蒸れにくくなります。	例:きゅうり、白菜、大根
冷凍	野菜は固ゆでしたり電子レンジで温めたり、火を通してから冷凍すれば品質劣化が抑えられます。	例:ほうれんそう、ブロッコリー
冷蔵	水分を取ってから冷蔵すると長持ちします。	
冷凍	下味を付けてから冷凍することで、解凍時の水分を抑えられます。	
解凍	冷蔵庫に移し半日かけて解凍するのが一番です。急いでいるときは袋のまま流水解凍を。一度解凍したものを再冷凍するのはNGです。	

食品ロスへの対応

現計画～食品ロス関連～

基本方針1 2Rを意識したごみを出さない生活スタイルの推進

啓発・普及に努める取り組み

- ・生ごみの水切りの徹底
- ・生ごみ堆肥化
- ・食べ残しをしない
- ・ばら売り商品の購入

今後普及啓発を要する取り組み

「食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針」素案より

	製造－無駄なく使用、賞味期限延長、適正受注、容量適正化 流通－納品期限等の商慣習見直し
事業者	販売－売り切り、少量販売 外食－小盛・小分けの選択、食べ切り（3010）、 残った料理の持ち帰り 農林漁業－規格外品の有効活用 共通－未利用食品の提供
消費者	買物－家の食材チェック、購入時「手前取り」、 使い切り 保管－食材に応じた適切な保管方法 調理－使い切り、食べ切り 外食－食べ切り、残った料理の持ち帰り、 宴席の最初と最後には食事を楽しむ（3010）

食品ロスへの対応

海洋プラスチックへの対応

プラスチックごみ減量・資源化

海と共に歩んできた舞鶴市

背景

- ・ 舞鶴市は、古来より、海と共に歩み、発展・交流してきた。
- ・ 臨港部には主要産業が立地し、海や港湾、水産資源を活用した観光・商業活動が活発に行われている。
- ・ 海上自衛隊や海上保安庁の主要機関が所在し、日本海の国防・安全の拠点になっている。

市の持続可能性を考えると 海洋環境の保全が不可欠

海ごみへの対応状況

【規模】 舞鶴市の海岸線 … 約120km

【管理・清掃】

- ・ 場所により管理者が異なり、各管理者で実施
 - 港湾区域 … 京都府港湾局
 - 漁港海岸・漁港 … 舞鶴市水産課
 - 海岸線等 … 京都府土木事務所

【ボランティア清掃】

- ・ 管理者による清掃等とは別に、自治会や観光協会等がボランティア清掃を実施。
- ・ ボランティア清掃については、市が専用ごみ袋(3分別)を提供し、収集・処分を行う。(市が費用負担)



市内海岸の状況 瀬崎



市内海岸の状況 竜宮浜



市内海岸の状況 神崎

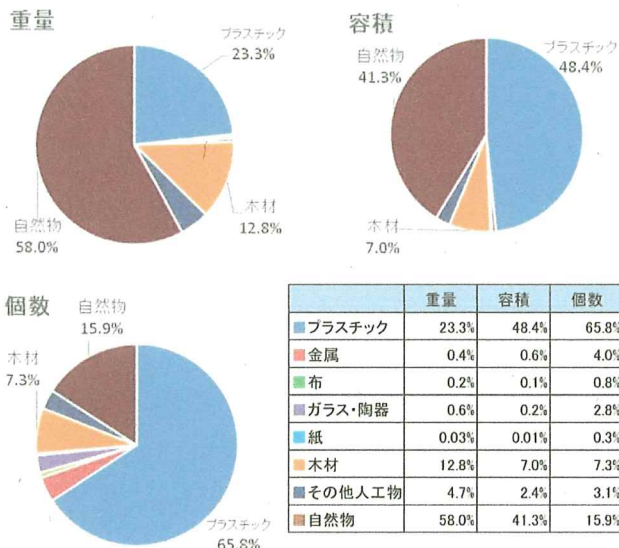


漂着ごみの状況～国内での調査結果

『我が国での海洋ごみをめぐる最近の動向』より（平成30年9月 環境省）

- 平成28年度全国10地点（稚内、根室、函館、遊佐、串本、国東、対馬、五島、種子島、奄美）で漂着ごみのモニタリング調査を実施。※1、2
- 種類別では、重量ベースで自然物が、容積及び個数ベースではプラスチック類が最も高い割合を占めている。

<種類別割合(重量、容積、個数)>



<漂着ごみ(プラスチック類のみ)の種類別割合>

分類	重量	容積	個数
飲料用ボトル	7.3%	12.7%	38.5%
その他プラスチック	5.3%	6.5%	9.6%
容器類（調味料容器、トレイ、カップ等）	0.5%	0.5%	7.4%
ポリ袋	0.4%	0.3%	0.6%
カトラリー（ストロー、フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー）	0.5%	0.5%	2.7%
漁網、ロープ	41.8%	26.2%	10.4%
フイ	10.7%	8.9%	11.9%
発泡スチロールフイ	4.1%	14.9%	3.2%
その他漁具	2.7%	2.6%	12.3%
その他プラスチック（ライター、注射器、発泡スチロール片等）	26.7%	26.9%	3.3% ※3
	100%	100%	100%

- ※1 調査対象の10地点は、平成22～27年度の間に調査した5地点及び平成28年度に新たに選定した5地点の計10地点。（全国の状況を表すものではないことに留意。）
- ※2 各地点の海岸線50mの中に存在したごみの量や種類等を調査した。
- ※3 発泡スチロール片等、劣化して微小であったものは、個数の計測はしていない。

漂着ごみの状況～舞鶴市

【京都産業大学によるフィールドワーク、10/22～23】

【概要】

- 2019年10月22日～23日京都産業大学が『子供農山漁村体験プログラム開発フィールドワーク』を実施。
- 大浦地区を視察し、農業・漁業関係者との意見交換を行った。

【ペットボトルの調査】

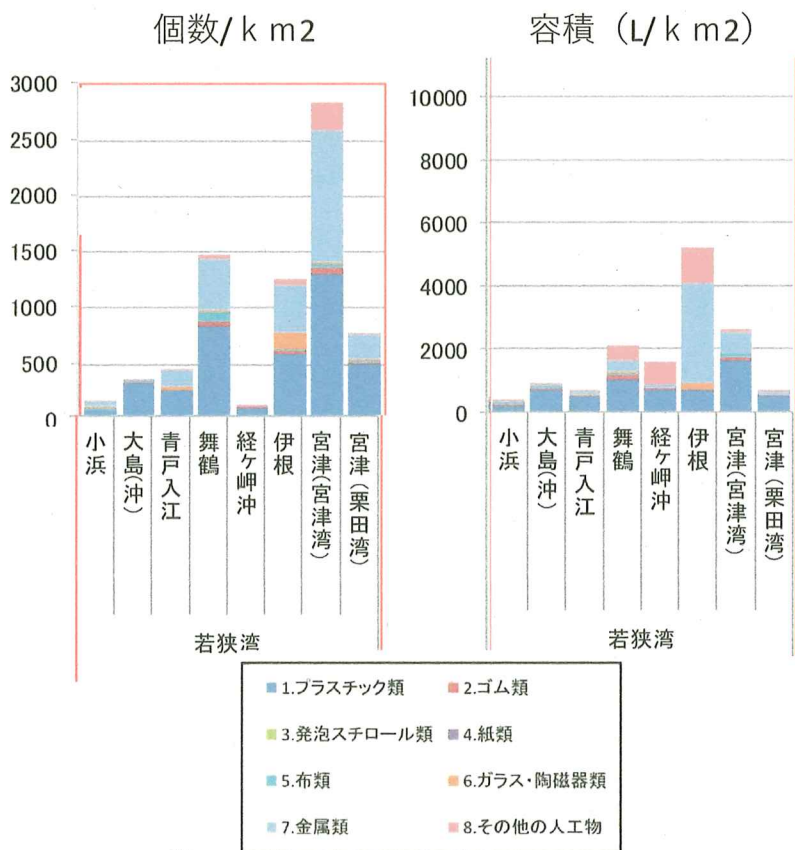
- フィールドワークの中で、野原漁港の清掃を実施し、回収したペットボトルを分別。(24日8～9時)
- 約8割程度が日本製のペットボトルであった。



海底ごみ(人工物)の回収調査(平成28年度環境省)

環境省「平成28年度沿岸海域における漂流・海底ごみ実態把握調査業務 報告書」より

- 平成28年度に環境省が調査を実施。陸奥湾、富山湾及び若狭湾において個数・重量・容積の計測。
- ほとんどの調査地点において、個数・重量・容積いずれにおいても、プラスチック類が占める割合が高い。
- 他地域と比較し、個数による密度では若狭湾の海底ごみの密度が高い。



本市での海洋プラスチック(海ごみ)への対応

◎ポイ捨て不法投棄対策

- ★自治会に啓発看板を配布
- ★不法投棄防止パトロールの実施 など

◎ボランティア清掃活動

- ★ボランティア清掃活動
- ★川と海を美しくする会の活動
- ★クリーンキャンペーン活動
- ★アダプトプログラム(環境美化里親制度)の運営 など



▲小学校への出前授業

◎ごみ問題について考える(啓発)

- ★小学校への出前授業
- ★まいづる環境市民会議の活動
(買い物ゲームやおもちゃ交換会など)
- ★ビーチコーミング事業
- ★ごみ分別ルールブックでの啓発
など



▲ビーチコーミング(清掃活動)



▲ビーチコーミング(環境学習)

舞鶴市のボランティア清掃の状況

回収品目	H28	H29	H30
可燃ごみ (刈草含む)	122.1 t	119.6 t	116.8t
不燃ごみ (汚れたプラ容器など)	16.0 t	16.3 t	13.2t
金属ごみ (空缶、金属類)	1.2 t	4.2 t	3.2t
ペットボトル	2.0 t	1.7 t	1.9t

回収量の約5~6割は海ごみ

海ごみの状況

- ・不燃ごみ、金属ごみ、ペットボトルの約5~6割程度が海ごみと推定。
- ・ボランティア清掃で回収される不燃ごみは分別に大きな手間を要する。また、金属以外のごみは資源化が難しい。

市管理の漁港や海岸の漂着・漂流ごみの回収・処分量

回収・処分品目	H28	H29	H30
可燃ごみ (流木・海藻・葦など)	33.1 t	94.0 t (台風21号災害関 連ごみ32.3 t 含む)	39.9 t
不燃ごみ (ポリタンク・漁業用浮 き・網などの漁具・ペット ボトル・タイヤなど)	11.3 t	77.8 t (台風21号災害関 連ごみ65.1 t 含む)	7.7 t

※収集場所

野原漁港海岸、竜宮浜漁港海岸、瀬崎漁港海岸
田井漁港、成生漁港、西大浦漁港

海洋プラスチック(海ごみ)の課題

海ごみの処理の困難性

- ・量が膨大で種類が様々。微細化したごみの回収が困難。
- ・塩分の付着によりリサイクルも焼却もできない。
- ・漁具等には鉛が含有しており処理先が限定、費用も多額。
- ・20トンの海ごみを市の施設で埋立する場合、1年間の不燃ごみ約1割に相当する容量となる。海ごみを埋立する場合は、市民のごみ処理にも影響。

処理には多額の費用を要する

- ・海岸線の漂着ごみの処理に年間300～400万円以上の費用を要している。
- ・海中ごみに関しては、流出した漁網を回収する費用110万円/t(H22環境省調べ)を要し、漁業者が回収する場合は売り上げが減少することにもなる。
- ・補助金の用途は限定的で、処理できないごみも多い。
- ・海外や国内の一部漁協等では海ごみを買取る事例もあるが、排出原因者から買取ることであり様々な議論がある。

市としての積極的な処理を進めるためには、市民の理解と支援が不可欠

海洋(海底・海中)ごみ処理
⇒処理するための仕組みや財源を検討
漂着ごみ(流れ着いたごみ)
⇒これまでの取り組みを充実

**プラスチックを流出させ
ないことが重要**

プラスチック流出防止に向けた取り組み～気仙沼市

気仙沼市海洋プラスチック対策推進会議

構成

学識経験者、漁協、観光協会、農協、商工会議所、商工会、生協、婦人会、県

方針

- ・ 漁具等の海への直接投棄や不適正な管理による流出を抑制するため関係者の意識の向上
- ・ 漁具等の適正な使用・管理や使用済みの漁網、漁具等の適正な回収を促進
- ・ 海面・海中を漂流あるいは海岸等に漂着したプラスチックごみを回収
- ・ 陸上での使い捨てプラスチックごみ対策や3Rの徹底、不法投棄の撲滅等により、海への流出を抑制

⇒アクションプランを策定

管理指標

- ・ ボランティアによるごみの回収量
- ・ 漁業者が回収した廃プラスチック
- ・ 農業系プラスチックごみの回収量
- ・ 海面浮遊ごみの回収量
- ・ 小売店の店頭でのプラスチックごみの回収量 など

海洋プラスチックへ対策

現計画～海洋プラスチック関連～

基本方針3 廃棄物の適正処理の徹底

環境美化の推進

- ①環境美化活動への支援（環境美化里親制度、ボランティア活動）
- ②不法投棄防止のための対策

今後必要となる取り組み

発生抑制

- ・ ワンウェイ容器の使用抑制
- ・ レジ袋使用抑制

意図的な流出の抑制

- ・ 不法投棄、ポイ捨て禁止啓発

非意図的な流出の抑制

- ・ 風や大雨等によるごみの流出が発生しない対策

陸上や河川の美化活動

- ・ 陸上や河川、海岸での環境美化活動

海ごみ回収

- ・ 沿岸の海ごみ回収の役割や費用分担の検討

1. 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の中間見直しについて

食品ロスへの対応

海洋プラスチックへの対応

プラスチックごみ減量・資源化

1. 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の中間見直しについて

不燃ごみ7種9分別収集の実施状況(1月末時点)

ペットボトル、プラスチック容器包装類の状況(1月時点前年同月比)

		R1 重量(t)	H30 重量(t)	前年比 %	前年比 重量(t)
搬入 合計	ペットボトル	148.30	—		
	プラスチック容器包装	524.35	498.34		
	合計	672.65	498.34	34.98%	174.31
搬出	ペットボトル	149.66	122.98	21.69%	26.68
	プラスチック容器包装	481.38	200.94	139.56%	280.44
	小計	631.04	323.92	94.81%	307.12

搬入区分(収集・直接搬入)の内訳

		R1 重量(t)	H30 重量(t)	前年比 %	前年比 重量(t)
搬入 (収集)	ペットボトル	80.07	—	—	—
	プラスチック容器包装	350.05	346.18	—	—
	小計	430.12	346.18	24.25%	83.94
搬入 (直搬)	ペットボトル	68.23	—		
	プラスチック容器包装	174.30	152.16		
	小計	242.53	152.16	59.39%	90.37

- ・プラスチック製容器包装類の増加量が当初想定350t増に近づいており、プラスチックの資源化に大きな成果。
- ・プラスチック製の包装袋類は可燃ごみとして排出されているものも多く、分別余地は大きいものと思われる。

1. 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の中間見直しについて

ごみ減量・資源化の状況(1月末時点)

ごみ量の比較(前年比)

	R1	H30	前年比	前年比%
可燃ごみ搬入量(t)	17,426	18,521	-1,094.66	-5.91%
不燃ごみ搬入量(t)	2,316	2,143	172.76	8.06%

- ・可燃ごみが減少し、不燃ごみが増加。
- ・プラスチック製の包装・袋類の分別による効果が一定程度あるものと推測。
- ・1人1日あたりごみ量は減少する見込みであるが、事業系可燃ごみ量による要因が大きく、家庭系可燃ごみ量は横ばい。
- ・資源化率は、近年は低下傾向にあったが、令和元年度は昨年より1.5%程度の向上が期待される。

- ・プラスチック製包装・袋類の分別推進
- ・ペットボトル・プラスチック容器包装類の収集回収、排出機会の拡充
- ・ペットボトル・プラスチック容器包装類の有料化
- ・レジ袋有料化



プラスチックごみの減量と資源化を推進

1. 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の中間見直しについて

レジ袋有料化に向けて

レジ袋有料化に向けた国の動き

毎日の中でできることから

はじまる、新しいくらしの習慣

2020年7月スタート

レジ袋有料化の動き

レジ袋削減にご協力下さい
-レジ袋有料化のご協力をお願いします-

レジ袋有料化 2020年7月1日スタート

ただし、削減して有料化することも推奨しています。
売値については各事業者様のご判断にお任せします。

レジ袋有料化の動き

- プラスチックのフィルムの厚さが50マイクロメートル以上のもので、レジ袋の有料化の対象となる。
- 海洋生物類をプラスチックの配合率が100%のもの、レジ袋の有料化の対象となる。
- バイオマス原料の配合率が25%以上のもの、レジ袋の有料化の対象となる。

環境省 厚生労働省 MAFF 経済産業省 農林水産省